

女性参画推進専門委員会による現地調査の概要

1 目的

女性参画の推進に関する現状や課題を実地に調査し、専門的な見地から復興計画の進捗等に関する意見をいただき、「復興実施計画（第2期）」の推進に反映させる。

2 実施日

平成 26 年 6 月 5 日（木）8:30～19:00

3 調査先

（1）宮古市

- ・重茂漁港（視察）
- ・重茂漁業協同組合女性部役員との意見交換

（2）大槌町

- ・高齢者等サポート拠点施設 サポートセンター和野っこハウス（視察）
- ・大槌町社会福祉協議会職員、生活支援相談員等との意見交換

4 調査者

大沢委員、兼田委員、菅原委員、瀬川委員、長野委員、平賀委員、福田委員、盛合委員、山屋委員、両川委員（委員 10 名）

5 調査先における主な意見

項目	調査内容／調査先からの意見等
重茂漁業協同組合女性部との意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・港と道路の整備が終わらなければ本格的な漁の再開はできない。漁民の側からすると、3年過ぎたのにこの程度かというのが正直なところ。 ・再整備するには、今までの漁港ではなく、みんなが安心でき、働く人にやさしく、未来に発信できる漁港にしてほしい。港を 60 cmかさ上げしたことで船の乗り降りが大変になった。整備にあたっては女性の意見を反映させてほしい。 ・妻も一緒に出漁し、夫に負けないような稼ぎをしているが、昔ながらの土地のため、普段は女性の声をどうかという話ほしない。家庭では女性が強いが、女性の声を漁協の運営や出漁に反映できるかといえそうではないという状況。 ・新規就労者を根付かせ、後継者を育てるには、地域の良さや風習を上手に伝えられる女性の関与が重要。 ・漁協女性部の会員数は現在 287 人で、ここ数年は現状維持できている。震災後、県全体の会員の減少に歯止めがかからず、なんとか策を講じなければならぬ。
大槌町社会福祉協議会との意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援相談員は、高齢者、障害者、乳幼児・就学児の世帯の定期的な見守り活動、仮設住宅の全戸訪問、サロンの開催等の活動を実施。 ・世帯から何も言われたい限りは普通に様子を見て、気づいたことがあれば行政と情報共有をしながら見守りを続けている。 ・仮設住宅入居者には、自己再建の目途が立たず、入居者に焦り、苛立ちが見える。特に、高齢者は希望が持てず、「仮設が終の棲家」というあきらめ

	<p>が感じられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他自治体での仮設の集約化の話聞き、住民に不安が広がっている。行政からの情報が不足していると感じる。 ・震災後、父子家庭となった家庭が目立った。これまで母親に家庭を任せていた父親が全てをやらなくてはならない中で、父子ともにストレスを抱えながら生活をしている。 ・高齢者の介護をしている中高年の世帯の衛生状態の悪化、栄養面では男性の独居世帯に問題がある。 ・50～60代住民の生活や心身状態に関する情報が入ってきにくい。 ・子どもに関することでは、仮設住宅が狭いため勉強ができない、運動ができずに肥満になるといった傾向が見られる。 ・生活支援相談員の定数30人のところ現在16名で、求人を出しても応募がない状態。雇用期間の延長や、支援員の経験年数がケアマネージャー等の受験資格に含まれるようになれば改善されるのではないかと。 ・生活支援相談員には、一人で抱え込まない、全体で話し合うということを徹底している。また、必要なことは行政につなげて適切なアドバイスももらっている。 ・NPOの買い物代行が今年度で終わる。利用住民も多いことから、介護保険の地域支援サービスとして町で継続してもらいたい。
--	---

6 委員による主な意見

項目	意見交換等における各委員の意見
重茂漁業協同組合女性部との意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・女性に意見を聞いたというところで終わってしまうことが多い。今後は、「意見がどう生かされた」の検証も必要となる。 ・女性も組合員として意思決定に参画していくには難しいことがたくさんあると思うが、女性部の地域活動のパワーが漁協の運営にも生かしていければもっと良い地域になるのではないかと。 ・次の世代に入ってきてもらうためにも、発言が認められ、自分の収入を得られるようになることが必要ではないかと。
大槌町社会福祉協議会との意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・独居男性の引きこもり、父子家庭の虐待などの男性のケースが目立ちはじめている。普段から男女共同参画を根付かせていかないとこのような災害時に大きな問題となることを改めてわかった。 ・生活支援相談員については、せつかくの経験、ノウハウが無駄にならないよう、身分を守れるしくみが必要であり、声をあげていきたい。 ・地域を強くするには、地域に住む人たちの役割や仕事やスキルを身につけて生きることだと思っているので、相談員の仕事で生活できるようにして、福祉の目線をもった人を増やすなど、人への復興に力を入れてほしい。

7 現地調査の様子



重茂漁協女性部との意見交換



大槌町社会福祉協議会との意見交換